

## 第2回 バードウォッチング検定「身近な野鳥コース」

### 正解と解説

**B**

(財)日本野鳥の会

| 問題番号 | 正解 | 問題番号 | 正解 | 問題番号 | 正解 |
|------|----|------|----|------|----|
| 1    | c  | 32   | a  | 63   | c  |
| 2    | a  | 33   | a  | 64   | a  |
| 3    | d  | 34   | a  | 65   | c  |
| 4    | a  | 35   | a  | 66   | g  |
| 5    | a  | 36   | c  | 67   | h  |
| 6    | b  | 37   | b  | 68   | i  |
| 7    | a  | 38   | b  | 69   | d  |
| 8    | c  | 39   | a  | 70   | a  |
| 9    | c  | 40   | c  | 71   | a  |
| 10   | c  | 41   | c  | 72   | a  |
| 11   | c  | 42   | c  | 73   | c  |
| 12   | a  | 43   | a  | 74   | d  |
| 13   | c  | 44   | a  | 75   | d  |
| 14   | b  | 45   | a  | 76   | b  |
| 15   | c  | 46   | a  | 77   | c  |
| 16   | a  | 47   | a  | 78   | a  |
| 17   | c  | 48   | c  | 79   | c  |
| 18   | a  | 49   | a  | 80   | d  |
| 19   | b  | 50   | b  | 81   | a  |
| 20   | b  | 51   | b  | 82   | d  |
| 21   | b  | 52   | a  | 83   | d  |
| 22   | d  | 53   | a  | 84   | c  |
| 23   | b  | 54   | c  | 85   | c  |
| 24   | b  | 55   | b  | 86   | a  |
| 25   | d  | 56   | a  | 87   | a  |
| 26   | d  | 57   | c  | 88   | c  |
| 27   | c  | 58   | d  | 89   | c  |
| 28   | d  | 59   | a  | 90   | b  |
| 29   | a  | 60   | c  | 91   | d  |
| 30   | a  | 61   | a  | 92   | b  |
| 31   | d  | 62   | c  | 93   | c  |

## <評価の考え方>

この検定では、テキストを参考に受験していただくことで「野鳥や自然に配慮しながら、幅広くバードウォッチングを楽しむ」「身近にどんな鳥がいて、どのように暮らしているかを知る」ために役立つ知識を提供したいと考えています。

皆さまが何級となったかは、年内に送付する予定です。下記のA B 2つの分野で、A 5点、B 2点以上の得点で5級、A Bでそれぞれ15点以上が4級、25点以上が3級、35点以上が2級、45点以上で1級になります。両分野で得点が必要なので、仮にAが50点満点でも、Bが24点未満だと4級になります。

級は資格ではありませんし、5級より4級が偉いという性質のものでもありません。(財)日本野鳥の会は自然保護団体として、野鳥や自然への配慮を含めてバードウォッチングを幅広く普及したいと考えており、その観点から設問や級が設定されています。ご自分の知識の範囲や程度を知る目安と考えていただき、また、やりがいとして活用いただければ幸いです。

## <問題の解説>

配点は各1点です（問題19（54）～（60）のみ各2点）。

### A 野外識別の基礎知識（配点50点）

#### [A. 1 野外識別各論についての問題（配点39点）]

美しい姿や声、おもしろいしぐさなど、鳥は名前がわからなくても魅力的な生き物と言えます。でも、名前がわかれば親しみも増し、興味が深まるもの。A. 1の[a]～[g]は、野鳥の見分け方の問題になっていますが、下に基本的なことを補足しておきます。

- 鳥は昆虫や植物より種数が少ない点では、見分けやすいと言えます。例えば昆虫は日本でおよそ3万種が記録されていますが、実際は10万種とも推測されています。
- 地球上で9千種、日本では550種を超える野鳥が記録されていますが、種ごとに暮らし方に違いがあるので、その鳥がいた地域や季節、環境などの条件から可能性がある種を絞り込むことが比較的容易です。
- 鳥は視覚に優れた動物で、色や模様の特徴がある点でも見分けやすいと言えます。嗅覚を発達させたほ乳類では、一般に鳥ほど色彩豊かではありません（私たちヒト以外のほ乳類は、あまり色を見分けられません）。
- 模様が複雑な鳥は見分けたり、覚えたりするのが大変に思えますが、細かい模様までわからなくてもかまいません。目立つところは見落とさないようにする必要がありますが、色や模様以外の見分けるポイント（大きさ、特徴的な体型・姿勢・動作・声・習性など）にも注目しましょう。
- 鳥が飛んでしまっても、見分けるのをあきらめないで下さい。飛んだときに目立つ模様、特徴的な形や飛び方から見分けられる鳥もいます。
- 簡単に見分けられる鳥がいる一方、ベテランでもなかなか見分けられない鳥もいます。よく出会う鳥、気に入った鳥、わかりやすい鳥などから見分けられるようにして、わからない鳥と出会った時に比較して特徴をつかむようにしましょう。
- 種だけでなく、雌雄、成鳥・幼鳥、夏羽・冬羽まで見分けられる場合もあります。種がわからなくても、「何の仲間か？」はわかりやすい鳥もいます



## B バードウォッチングの総合的な基礎知識（配点50点）

### [B. 1 鳥や自然への接し方の問題（配点30点）]

[a]の野鳥の保護に関する法律や条約は、「新・水辺の鳥」54～56 pで紹介しています。問題18（51）に関わる鳥獣保護法は7月に改正され、これまでのカタカナ書き文語体からひらがな口語体になります（正式名称は「鳥獣保護及び狩猟の適正化に関する法律」）。また、今年にはヨハネスブルグで地球サミットがありましたが、10年前のリオデジャネイロでのサミットの合意を踏まえて成立したのが環境基本法と言えます。なお、種の保存法の正式名称は「絶滅のおそれのある野生動植物種の保存に関する法律」です。

[b]のフィールドマナーに関連して最近問題にされるのが、外来種の増加や給餌による悪影響です。在来種が影響を受けたり、特定の種が増えることで生態系にもマイナス面が指摘されるようになりました。1羽、1匹を慈しむ気持ちが野生生物の保護に結びつく一方で、生物同士や生物や環境との関わりにも配慮するようにしたいものです。

[c]の鳥を身近に呼ぶことに関しては、「新・山野の鳥」55 pで述べているように、まず、そこにどんな野鳥がいて、どのように暮らしているかを知るようにしましょう。

[d]は自然のしくみについての設問です。「人類共通、最大の課題である地球環境問題の解決には、持続型社会を目指すことが必要」と言われるようになりましたが、持続可能な自然のしくみやそれを支えている生物多様性など、バードウォッチングから学べることもあります。本会の「バードウォッチング案内人研修会」や自然体験活動推進協議会の共通カリキュラムの「2・自然の理解」では（1）地球とヒトの歴史（2）地球と生物のしくみ がポイントとされています。地球上で共存している数千万種の生物の中で、約4千種のは哺乳類のうち、約2百種の霊長目（サルのなかま）に分類される1種が私たちヒトという生物です。どんな民族でもただ1種のヒトですが、同時に、地球の将来を左右する存在であることを自覚したいものです。

なお、問題24（69）の選択肢aは、ほ乳類の特徴で、お乳で子育てすることから、水などを吸い込んで飲む能力が発達したと考えることができます（多くの鳥では水を飲む時は、上を向いて流し込むようにします）。

### [B. 2 総合的な知識や幅広い視点を得るための問題（配点20点）]

野生生物は生き残るのが当たり前ではありません。「食べる、食べられる」の関係や生存競争によって、特定の生物種だけが増えすぎないからこそ、多くの生物種が共存しています。例えば、小鳥の子育ては子沢山、短期間が多く、春に生まれたものは翌年の春には繁殖年齢に達するのが普通です。それでも増えすぎないのは、多くの子が生まれても、生き残るものは少ないからと言えます。鳥に食べられる側の虫や魚ではさらに子沢山で、卵は産みっぱなしが原則なので、生き残るものはよりわずかでしょう。私たちが出会う野生の命は生き残った一部ということになります。

一方、どんな種でも多くが食べられたり、死んだりしながらも一部は必ず生き残ることで子孫が続いていることを考えると、生物の姿かたちや暮らし方は偶然にそうになっているとは思えません。生き残るための姿かたち、暮らし方であるなら、すみかである環境、食べ物や天敵となる他の生物と無関係ではないでしょう。バードウォッチングではそのようなワケやつながりを科学的に調べたり、推理したり、あるいは想像力で楽しむこともできます。[e]の鳥の習性などでは、問題29（89）～（91）が上記に関連した問題で、[d]の自然のしくみの理解にも結びつくように考えました。[f]では野鳥に親しむことに役立つ観点から、雑学として2問を出題してあります。

## <お勧めバードウォッチング>

バードウォッチングの最初は、経験がある方にその場で直接教えてもらうのがよいと言われます。ただし、ベテランと呼ばれる人もさまざまで、野外識別に優れた人もいれば、習性に詳しい人、自分なりのテーマでユニークな楽しみ方をしている人もいます。その点で、日本野鳥の会の各地の支部が実施している探鳥会をお勧めします。いろいろな探鳥会に参加してみて、自分に合ったリーダーや仲間を探してみるとよいでしょう。探鳥会の案内は各地の支部報に掲載されます。ご入会いただくことで支部報がお手元に届くように手続きができますが、多くの場合、会員外の方でも参加できます（探鳥会情報はこちら→<http://www.wbsj.org/event.html>）。

最近では日本野鳥の会以外でも、いろいろなNGOや地域の施設などでも、バードウォッチングに関する行事が実施されるようになりました。インターネットに接続できる環境をお持ちの方は、最後に示した各組織のホームページなどを参照して、情報収集をされてみてはいかがでしょうか。

さて、秋冬は初心者でも野鳥を見やすく、身近でも種や数が増える時期と言えます。秋冬ならではの観察ポイントを紹介しましょう。

### ●シベリアからの使者を探そう

川や池など水辺があればカルガモ以外のカモ、ユリカモメなどの冬鳥に出会えます。公園や庭にもツグミやジョウビタキがやって来ます（ジョウビタキは朝鮮半島でも繁殖する。北海道や雪国では冬を越さない。ユリカモメも北海道では冬よりも春、秋に多い）。海を越えて渡ってきた彼らが一冬を生きのびて、春にふたたびシベリア方面を目指すドラマを想像してみましょう。悪天候や天敵、越冬地・中継地・繁殖地の環境変化、密猟など多くの危険を乗り越えて渡りは繰り返されているはずです。小さな命の生きるパワーに元気づけられたり、身近な場所も大切に感じられたりしませんか？

### ●冬でもペア？

生存率が低い小鳥などでは、つがいや親子の関係は繁殖期とともに終わると考えられています。しかし、ハシブトガラスやハシボソガラスではねぐら入りなどを見ていると、2羽や数羽がともに行動しているのが見られ、関係が続いているものもいるようです。また、つがいの間で行うとされる相互羽づくろい（互いに羽づくろいをしあう）が秋冬でも見られることがあります。

冬こそペアという変わり種がカモの仲間、問題29（80）のように、これから求愛行動が見られます。どんなオスがモテるのでしょうか？ メスは どうやってオスにOKを出すのでしょうか？

### ●何してる？ウォッチング

「新・山野の鳥」57 pに行動の観察ポイントを紹介してありますが、下記も参考にして下さい。

#### 1) 食べる

→何を食べていますか？

- ・木の実の場合、丸飲みしてタネはフンで出すのが普通ですが、例外もあります。カワラヒワやシメのような太いくちばしの小鳥は果肉などのタネのまわりを落とし、タネを食べます。

→どうやって食べていますか？

- ・カラス科、モズ科、シジュウカラ科などは足を使って食べ物を押さえることができます。
- ・カラス科やシジュウカラ科の一部などには、食べ物を蓄える習性もあります。

#### 2) フンをする

→食べてからどのくらいでフンをしますか？

- ・鳥はよく食べ、よく出す動物。食べてしばらくするともうフンをします。秋冬の小鳥のフンにはタネが混じっていて、彼らがタネの散布に貢献していることがわかります。

→どうやってフンをしますか？

- ・フンで尾羽を汚さないよう、お尻を上げるような行動が見られます。
- ・キツツキ科のようにいつも尾羽で体を支えている鳥では、どのようにフンをするでしょうか？
- ・飛びながらの場合、サギなどは長い足を汚さないように開きます。

### 3) お昼寝

→足とくちばしはどうしていますか？

- ・夜行性のカモでは寝ている姿がよく見られますが、「新・水辺の鳥」6 pにあるように、羽のない部分は羽の中に埋めるようにします。

→まぶたは閉じていますか？

- ・カモのまぶたは下から上に閉じます。まぶたが白っぽいため、本当に寝ていると目の部分が白く見えるものが多いようですが、寝ている姿勢で目を開けているものもいます。

### ●見分けを極めたい方へ

多くの人がいろいろな楽しみ方ができるように、この検定では「見分ける」ことを幅広く捉えています。同じ種でも亜種、雌雄、年齢、夏冬羽や婚姻色、さらにはつがいや親子などの個体関係まで、さまざまな見分けにチャレンジできます。「警戒しているか？弱っているか？」などの状態を見分けることは、鳥に与える影響を減らしたり、保護にも役立ちます。痕跡（食痕、足跡、羽、古巣、フン）を見分けたり、死体から死因を推測する人もいます。さらに、色や模様などの個体差から個体識別をして、調査研究に役立てる人もいます（例えば、庭に来るシジュウカラの個体識別を試みたら、同じ1羽ではなくいろいろな個体がやって来ていたなど）。また、警戒の程度などから「定着している個体か？移動してきたばかりか？」などを推理する人もいます（例えば、冬鳥のカモのなかまは渡来当初は人を恐れているが、公園の池などではやがて人の近くにも来るようになる）。

さあ、あなたはどんなバードウォッチングに挑戦しますか？

## <<日本野鳥の会ご入会はこちらへ・・・>>

〒151-0061 東京都渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階

財団法人 日本野鳥の会 会員室

電話 03-5358-3510（月～金 10時～17時）

ファックス 03-5358-3608

電子メール shiryu@wbsj.org

ホームページ <http://www.wbsj.org>

## <<参考になるホームページ一覧>>

環境省 <http://www.env.go.jp>

財団法人 日本鳥類保護連盟 <http://www.ask.ne.jp/~jspb>

財団法人 山階鳥類研究所 <http://www.yamashina.or.jp/>

財団法人 日本自然保護協会 <http://www.nacsj.or.jp>

財団法人 世界自然保護基金ジャパン (WWFJ) <http://www.wwf.or.jp>

特定非営利活動法人 自然体験活動推進協議会 <http://www.cone.ne.jp>

今回のバードウォッチング検定は、来年5月のバードウィークに広報開始を予定しています。日本野鳥の会ホームページ (<http://www.wbsj.org>) や会誌「野鳥」などで告知するほか、今回受験いただいた方にはお知らせをお送りする予定です。どうぞご期待ください。